

語りべ活動の第二フェーズ 「語りベシアター チャレンジ公演2019」

加藤しのぶ 取材・執筆
藤巻伸吾 撮影

語りと映像でまちの歴史を楽しくわかりやすく伝える「語りベシアター」。長年、大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所の栗本智代研究员が中心となって行っていたが、2014年からは活動の裾野を広げるために一般向けのワークショップが開かれ、その参加者によるチャレンジ公演と題したお披露目会も行ってきた。本年3月13日、5回目となるチャレンジ公演を開催。これまでのワークショップの卒業生24人が6チームに分かれて出演した。

1994年から続けられている語りべ活動については、本誌110号の栗本氏によるレポートに詳細に記されているので割愛するが、このたびのチャレンジ公演は、初心者から経験豊富なベテランまで混合のチームを編成した、60代が中心のメンバーである。

各チームの課題は、テーマの選定に始まり、調査、台本や画像作成、語り、演出まですべてオリジナル作品の創出だ。半年の間、栗本氏のアドバイスを受けながら、チームごとに何度も集まり、準備、練習を重ねて本番を迎えた。当日、満席の会場で行われた公演からは、熱い地域愛があふれ出していた。

地域の魅力創出と、発信の場として

各チームの公演はそれぞれテーマの選定や説明、見せ方に独自の工夫が凝らされていた。お揃いの陣羽織風衣裳を着て演じたり(チーム魁「三好長慶——戦国天下人」)、大阪富田林出身の歌人石上露子の生涯を、傍で仕えた女中の視点で語ったり(チーム向日葵「歌人 石上露子ものがたり」)、真面目な内容ながら折々に笑いを誘うオチを用意したり(チーム魅都「近松ものがたり」)、どう見せるかを試行錯誤しながら作り上げたであろうことがうかがえた。また、ピアノの生演奏を効果的に

された日と同じ。いったい何の日? 答えは「大阪大空襲」。太平洋戦争末期に繰り返された米軍による大空襲の端緒となった日である。空襲が起こった深夜、命からがら地下鉄構内に逃げ込んだ市民を、営業休止時間ながら地下鉄を走らせ避難さ

せた実話をベースに、ひとりの主婦の視点で語られる。空襲の惨状を迫る真の演技で語り、合間に当時の写真やデータを映像で見せながら解説を加える構成で、最後まで見る者の集中を途切れさせない。見終えた後に今日はその日からちょうど74年、現

織りませたり(チームヒストリアX「大阪万博レガシー」そして、再び、大阪・関西から世界へ)、芝居心たっぷりの淀姫による大阪案内(チーム風紋「天王寺七坂物語」)など、メンバーの得意技能を前面に出した作品など

在の大阪はここまで復興したのだという参加者の感慨までが「作品」となっていると見事だった。聞けば、ワークショップ初期からの古参メンバーで、他チームのアドバイス役も担当しているチームとのことである。

最後は、池永寛明大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所長(当時)より、地域の歴史を地域の人が語る迫力を感じたという総評と各チームの講評が行われた。会場の反応も熱かった。時に感嘆の声があがり、大きな笑い声が響いた。公演後のアンケートに熱心に書きこんでいる様子もあちらこちらで見かけられた。今回の公演後、2チームが各地域の会合で発表を依頼されたというのが、好評の何よりの証左だろう。

生涯教育としての意義

公演終了後、「三月十三日」を上演した「チームみをつくし」のお二人に、ワークショップの参加動機、参加して感じたこと、今後の思いなどをうかがった。

聴く者の胸に迫る語りを披露したなにな慶子さんは、かつてNHKに所属していた劇団員という経歴を持つ。語りべの取り組みを通して、

も印象に残った。

なかでも圧巻だったのは、男女二人の語りべによる「チームみをつくし」の「三月十三日」。まず、タイトルに興味をそそられた。三月十三日とは、このチャレンジ公演が開催

「自分の生まれ育った大阪のよさがわかって、愛に変わっています」と熱く語る。今回、自身も生まれる前のことだからこそ、風化する前に若い人に知ってもらいたいという思いで、当時の戦争体験記をもとに台本を構成したという。今後、学校などでも公演ができることを願っている。解説役を担当したますの隆平さんは、地元のボランティアガイドをしていたことから、「もっとほかの形で大阪の魅力を伝えられないか」という思いでワークショップに参加、たまたま席が隣だったなにな慶子とチームを組むことになり、今に至っている。二人の間で、語りの部分になにな慶子、自身は資料を調べ、写真や映像を考えるなど、それぞれの得意分野で自然に役割分担ができていくという。

二人に共通するのは、仕事や子育てが一段落し、心も時間も余裕ができる年齢になったからこそ、地元大阪の魅力に気づけたということ。地域のもつよさを掘り起こし、それを次世代へ伝える——「語りべ」の活動は、地域の魅力発信だけでなく、ライフワークともなる魅力を備えた取り組みでもあるのだと感じた。

取り組みは次期も続けられる予定である。超高齢社会に向けて、参加者が自分のまちに誇りを持ち、いつまでも輝ける場となることを願う。



上/「語りベシアター チャレンジ公演2019」には、6チーム総勢24人が参加した。左下/大阪大空襲の惨状を写真やデータを交えながら語った「チームみをつくし」。右下/「チームみをつくし」のますのさん(左)となにな慶子さん(右)。



「語りベシアター チャレンジ公演2019」開催のご案内
大阪ガス エネルギー・文化研究所

「語りベシアター」では、2014年より「語りベシアターチャレンジ公演」を開催し、ワークショップの卒業生によるお披露目会を開催してきました。今年も、3月13日(水)に「語りベシアターチャレンジ公演2019」を開催いたします。ぜひお申し込みください。

日時 2019年3月13日(水)
13時～16時30分(受付開始は12時)

会場 アーバネックス備後町ビル 3Fホール

主催 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所

お問い合わせ: 06-6525-3332

語りベシアター チャレンジ公演2019
実施日 2019年3月13日(水) 13:00～16:30
会場 アーバネックス備後町ビル 3Fホール
主催 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所